

博多遺跡群における出土状況

田中克子
福岡市教育委員会

TANAKA Katsuko
Board of Education FUKUOKA City

はじめに

中世国際貿易都市として栄えた博多では、30年にわたる発掘調査によって多岐にわたる交易品が出土している。中でも貿易陶磁器の出土量は全国的にも群を抜いており、この地が当時の貿易港であったことは明白である。博多へ荷揚げされた輸出品はこの地から当時の日本国内や琉球へと運ばれていた。実際、琉球列島一帯で出土する朝貢貿易開始以前の貿易陶磁器は、日本各地における内容とそれ程の差があるわけではない⁽¹⁾。しかし、琉球諸島では13世紀後半頃から、このような全国的に流通した貿易陶磁器に混じって、本土ではほとんど出土することのない今帰仁タイプ・ビロースクタイプといった白磁が存在し、朝貢貿易が開始される前にも、当時の中国と琉球との間に何らかの直接的な関わりがあったことを示唆している。これら白磁が、博多を介さずに直接琉球へもたらされたものであるのかどうか、まず当時の貿易拠点であった博多遺跡群での出土状況を明らかにせねばならない。本項では、博多遺跡群に関する既刊報告書の検索により全ての関連資料を抽出し、中でも関連性の強い資料について報告する。博多遺跡群以外での詳細な出土状況については、新里の報告（資料篇2）を参照していただきたい。

1. 今帰仁タイプとその関連資料（図1、表1、写真1）

全形を知り得る資料が少なく、琉球諸島出土の今帰仁タイプの典型と思われる資料は確認できなかったが、1～4の4点にかろうじてその特徴を見出せる。1・2は口縁から釉液に浸し内底まで施釉せずに露胎として残し、3・4は施釉後内底を輪状に釉剥ぎする。いずれも、灰色がかった白色の緻密な磁質胎土にやや青味の強い透明釉がかかり、よく焼けているものについてはかなり透明感がありガラス質である。内底は丸く凹み段が付かず、体部はやや内湾気味に大きく外に開く。3・4の高台は一旦削り出した後、外底中心部分を比較的広い範囲で再度平坦に削り取るため、外底周縁に沿って断面三角形の溝が一周しており、これは今帰仁タイプの典型的な特徴でもあり、また浦口窯製品の特徴でもある。しかし、1は全体に小振り度高台を一度に削り出す点で異なっている。畳付はいずれも斜めに削られる。また、2は内底に沈線が巡り、連江浦口窯では類似品も確認されている（第3章第2節2の図3-21・28他）。これらの出土年代は概ね13世紀後半～14世紀代に納まる。

5～10は、体部が外に大きく開き内底が丸く凹む点・高台畳付が斜めに削られる点・外底の削り出し方法等は今帰仁タイプに類似するが、口径・高台径・器高の比率や体部が直線的である等、全体的に今帰仁タイプとはやや違和感のある器形である。また、内側面に沈線が巡る点や高台畳付に重ね焼き時の熔着防止の白泥が付着する等、今帰仁タイプには見られない特徴も有する。特に畳付に白泥が付着させて重ね焼きする焼成方法は、12世紀中～後半時期博多に大量に輸入された福建産白磁（第3章第5節2の図1 田中分類F類、田中2003）によく見られる現象である。5～10のタイプはこの焼成方法を踏襲したもので、出土年代等を考え合わせると今帰仁タイプに先行するものかもしれない。或いは浦口窯の製品ではない可能性もあるが、浦口窯の今帰仁タイプ類似資料の中には畳付に白泥が付着するものも少量ながら確認されていることから、一概には否定できず、これらを「類今帰仁タイ

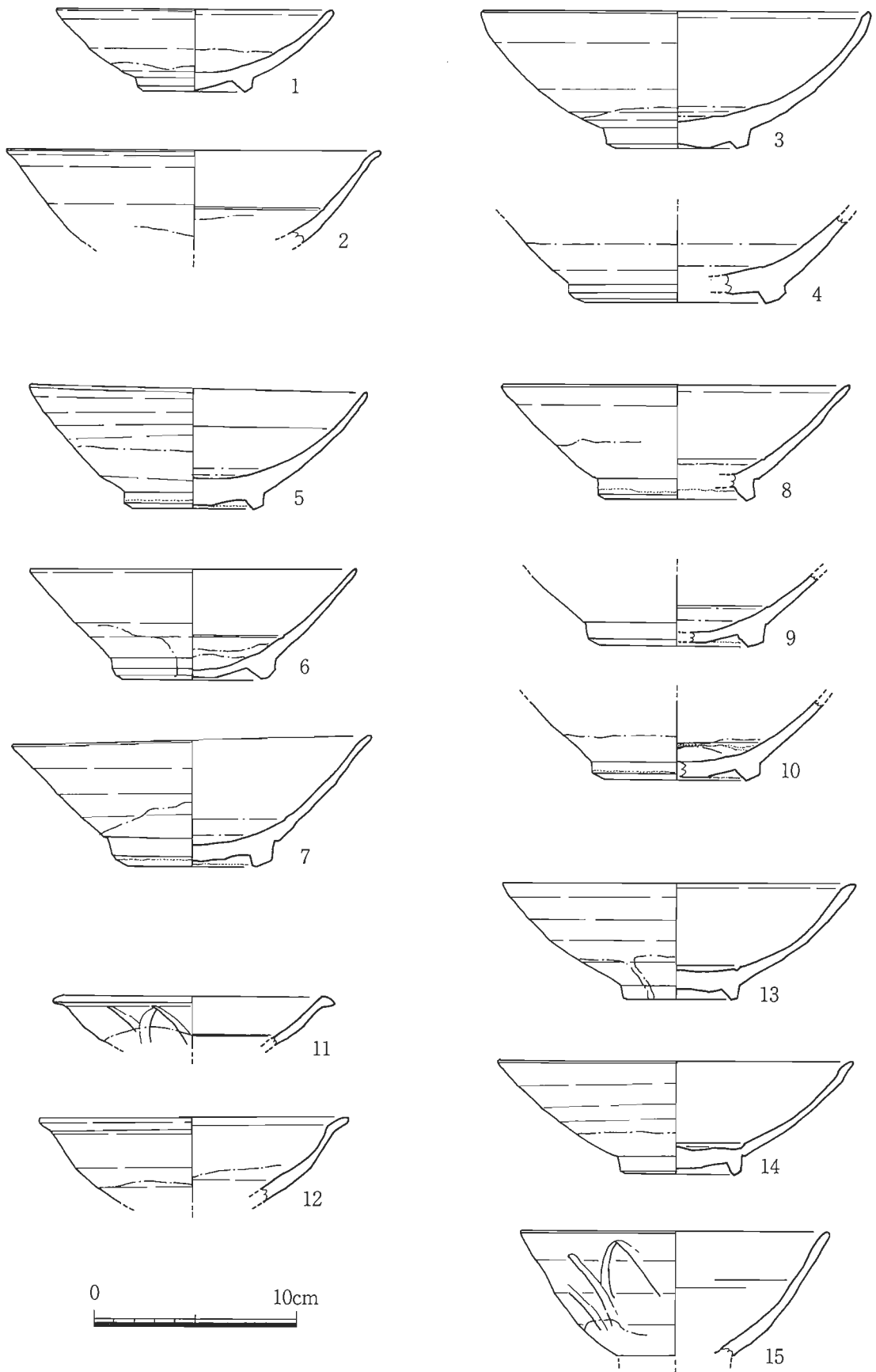


図1 博多遺跡群出土の今婦仁タイプとその関連資料 (S = 1/3)

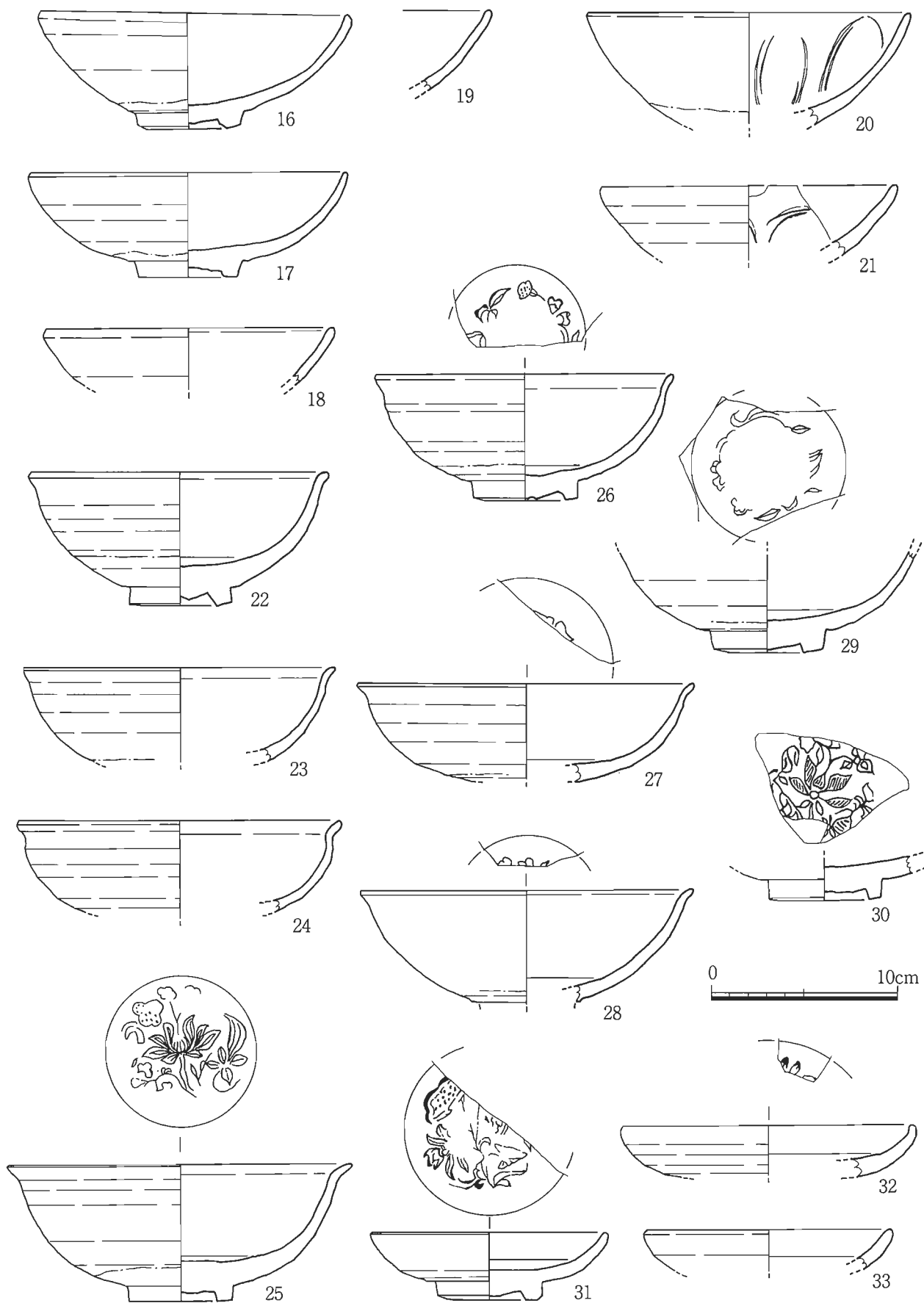
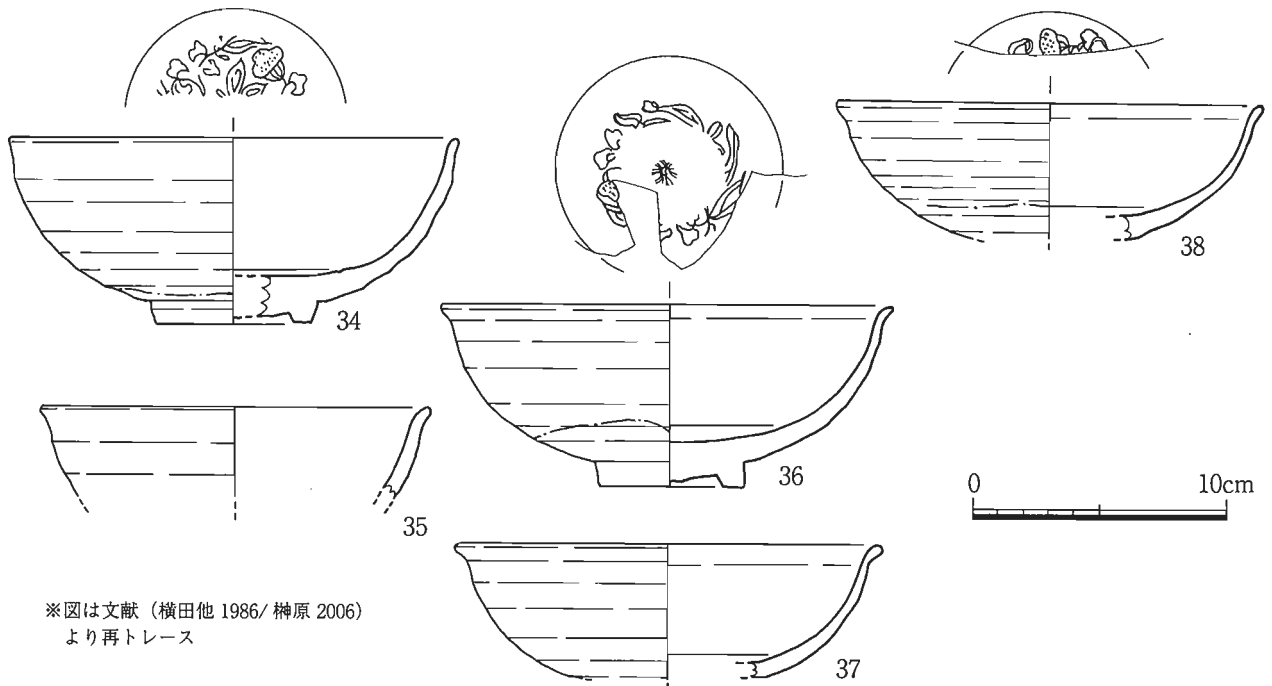


図2 博多遺跡群出土のビロースクタイプ (S = 1/3)



※図は文献（横田他 1986/ 榊原 2006）より再トレース

図3 大宰府史跡・十三湊遺跡出土のピロースクタイプ (S=1/3)

プ」とし、今後の参考資料として掲載した。

以上の他、参考資料として今帰仁タイプの範疇には入らないが浦口窯と思われる代表的なものを挙げる(11~15)。ただし、11・12の口縁部片については福建省莆田庄辺窯にもかなり類似した製品があり、この限りではない⁽²⁾。胎土・釉調は上記1~4とほぼ同じである。器形・文様等から南宋期同安・竜泉窯製品の影響を受けたものと思われる。11は外面に片切彫りによる蓮弁文を施す小形の皿で、12~15は碗である。12は内底を露胎とする。13・14は内底に段を有し平坦になっており、体部は大きく外に開くが、もう少し立ち気味のものもある。15は11と同様外面に片切彫りによる蓮弁文を施す。13~15と同類の製品は後述する元寇関連の遺跡とされる長崎県鷹島海底遺跡でも多数出土している。博多遺跡群でも散見できる程度の頻度で出土し、その年代も元寇時期とほぼ重なる。これらの出土年代は早いもので12世紀後半代であるが、13世紀前半~14世紀前半に納まるものが多い。

2. ピロースクタイプ (図2・3、表2、写真2)

博多遺跡群で確認したピロースクタイプは20点である。Ⅱ類が6点、Ⅲ類が14点で、Ⅰ類はない。胎土はやや黄味、或いは灰色がかった白色で、磁質であるが小孔が多い。釉は総じて失透したものが多く釉層は厚い。器壁、特に底部は厚い。高台は低く肉厚でかなり雑に削り出され、一旦削り出した後、外底中央部のヘソ状に突出した部分を再度簡単に削り取っている。畳付は水平に削られる。

16~21はⅡ類碗である。内底は段が付かず丸く凹み、体部は内湾しながら大きく外に開く。20・21は内側面に細いへら彫りによる2本単位の蓮弁文を施す。17は14世紀前半代の遺構から出土、他は包含層出土のため明確な時期は不明であるが、共伴する中国産陶磁器等から概ね15世紀前半までにはもたらされたと思われる。

22~30はⅢ類碗である。内底が広く平坦で沈線が巡る。腰が大きく張り出し、高台脇を水平に削りこむ。内底面が無文のもの(22)、印花文を施すもの(25~30)があり、印花文は不明瞭なものも

あるが、恐らく全て蓮華文と思われる。

31～33は内湾口縁皿である。31・32は内底面が広く平坦で沈線が巡ることと、Ⅲ類碗と同様の蓮華文が施されることから、外反口縁ではないがⅢ類碗とセットとして捉える。33については小片のためⅡ類、或いはⅢ類のいずれかは不明である。出土年代については、33が14世紀前半～中頃、他は15世紀前半頃を主体としそれ以降と考えられる。特に、ビロースクタイプが最もまとまって出土した築港線3次調査では、包含層出土ではあるが、他の共伴中国産陶磁器は概ね15世紀前半代の様相を呈する。

以上博多遺跡群出土以外に、日本本土でその出土年代が比較的明確な資料を挙げる(34～37)。

34・35は大宰府史跡出土のⅢ類碗である。34は嘉元二年(1304年)、35は元徳カ二年(1330年)銘を有する卒塔婆出土遺構から出土した(横田他1986、15～25頁)。36～38は青森県十三湊遺跡出土のⅢ類碗である。14世紀中～15世紀前半の陶磁器一括廃棄土坑から出土した(榊原2006)。

3. まとめ

博多には、12世紀後半位から14世紀の早い段階にかけて、浦口窯と思われる製品がもたらされているものの、琉球諸島で出土する今帰仁タイプはほとんど皆無に等しい状況と言える。かろうじて今帰仁タイプの特徴を持つ極少量の製品は、13世紀後半～14世紀に位置づけられる。また、ビロースクタイプについては、Ⅰ類はなく、Ⅱ類も極めて少なく、早いもので14世紀前半には見られる。これに対してⅢ類はⅡ類に比べると倍増しており、その時期は15世紀前半頃と考えられる。なお、大宰府出土の資料については、紀年銘資料の時期とⅢ類を同一時期として捉えていいのか、遺構の一括性についても考慮すべきであり、現時点でⅢ類の出現時期を14世紀前半まで遡らせることは控えたい。

以上、それぞれの出土年代については、琉球列島と概ね同じと言える。また、その出土量は極めて少なく、この状況をどう捉えるかは、琉球列島等での出土状況と合わせて後述する。

注

- (1) 進貢貿易が開始されて以後、特に14世紀後半～15世紀にかけての沖縄諸島における貿易陶磁器の豊富さは、質・量ともに日本本土のそれを凌駕しており、これはまさに琉球と明との直接交易を物語るものである。
- (2) 庄辺窯の製品については、既に宮城により報告されている(第3章第2節2)が、浦口窯の製品とは、胎土・釉調が極めて類似しており、肉眼観察による分別はかなり困難である。また、内底を露胎のまま残したり、或いは輪状釉剥ぎして重ね焼きをする焼成方法も両者ともに同じであり、さらに器形的にもかなり似たものがある。両者の最も大きな違いは底部の形状に見出すことができる。庄辺窯は内底が広く比較的平坦で、特に高台の削り出し方法に浦口窯との顕著な違いがある。浦口窯の特徴である二度にわたる削りが、庄辺窯の製品には見られず、いずれも一度に平坦に丁寧削り出されている(第3章第2節2の図4-41～44参照)。従って、底部を欠く資料ではその区別が困難なものが多い。

文献

- 榊原滋高 2006 「十三湊遺跡の一括資料と基準資料」『貿易陶磁研究』No.26、日本貿易陶磁研究会
- 田中克子 2003 「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁 - (その三) 宋・元代白磁をめぐる問題」『博多研究会誌』第11号、博多研究会
- 横田賢二郎・森本朝子・山本信夫 1986 「新安沈船と大宰府・博多の貿易陶磁器 - 森田勉氏の研究成果によせて -」『貿易陶磁研究』No.9、pp.15～25、日本貿易陶磁研究会

表1 博多遺跡群出土の今帰仁タイプとその関連資料一覧

番号 (登録番号)	調査地点	遺構	種類	胎土・釉調他	遺構の年代	報告書名 (集)
1 (783301398)	地下鉄(4) 祇園町工区 H区	SK49	今帰仁タイプ ／露胎・碗	淡灰白色磁質、淡灰オリ ーブ色透明釉	13C後半～14Cか？(口禿白磁 など)	地下鉄Ⅶ (193)
2 (955410953)	博多95次	SE128	今帰仁タイプ ／露胎・碗	淡灰白色磁質、青色帯透 明釉	14C前半～中頃をやや下る	博多 86(757)
3 (955411360)	博多95次	3～4面包含 層	今帰仁タイプ ／輪剥ぎ・碗	淡灰白色磁質、やや青灰 色帯透明釉	14C代(新安沈船出土関連陶磁 多い)	博多 86(757)
4 (056600344)	博多159次	2～3面包含 層	今帰仁タイプ ／輪剥ぎ・碗	灰色磁質、やや青味帯淡 灰色半透明釉	不明(14～16C)	博多 116(946)
5 (772500560)	地下鉄(2) 店屋町工区 C・D区	SK132 (廃棄土坑)	類今帰仁タイ プ／輪剥ぎ・ 碗	白色磁質、やや黄味帯淡 灰色半透明釉、高台に白 泥	12C中～後半？(同安・竜泉窯 青磁など)	地下鉄Ⅴ (126)
6 (832700028)	博多22次	SK357	類今帰仁タイ プ／輪剥ぎ・ 碗	白色磁質、淡灰白色透明 釉、高台に白泥	13C中～14C初頭？(口禿白磁、 南宋後半竜泉窯青磁など)	博多Ⅲ (118)
7 (911100322)	博多71次	SK471	類今帰仁タイ プ／輪剥ぎ・ 碗	白色磁質、やや灰色帯透 明釉、高台に白泥	13C初～前半？(竜泉窯青磁蓮 弁文碗など)	博多 53(450)
8 (886200333)	博多45次	SE2004 (土師器大 量一括廃 棄)	類今帰仁タイ プ／輪剥ぎ・ 碗	灰白色磁質、灰白色不透 明釉、高台に白泥	13C中～14C初頭(口禿白磁、南 宋後半竜泉窯青磁、元代磁窰窯 壺など)	博多 20(248)
9 (886200331)	博多45次	SE2004 (土師器大 量一括廃 棄)	類今帰仁タイ プ／輪剥ぎ・ 碗	淡黄褐色完全磁質でない、 やや黄味帯淡灰白色 不透明釉	13C中～14C初頭(口禿白磁、南 宋後半竜泉窯青磁、元代磁窰窯 壺など)	博多 20(248)
10 (886200332)	博多45次	SE2004 (土師器大 量一括廃 棄)	類今帰仁タイ プ／輪剥ぎ・ 碗	灰白色磁質、淡灰白色透 明釉、高台に白泥	13C中～14C初頭(口禿白磁、南 宋後半竜泉窯青磁、元代磁窰窯 壺など)	博多 20(248)
11 (874010220)	博多37次	SK788 (木桶墓か)	浦口窯？・小 形皿(外面蓮 弁文)	淡灰白色磁質、やや青灰 色帯透明釉	12C後半～13C	博多 16(244)
12 (896350464)	博多62次	SK3677 (大量一括 廃棄土坑)	浦口窯？・露 胎碗	灰色磁質、灰青色透明釉	13C初頭(輸入陶磁器は12C中 ～後半が主体)	博多 48(397)
13 (832700030)	博多22次	SK357	浦口窯・碗	淡灰白色磁質、淡青緑色 不透明釉	13C中～14C初頭？(口禿白磁、 南宋後半竜泉窯青磁など)	博多Ⅲ (118)
14 (832700029)	博多22次	SK357	浦口窯・碗	淡灰白色磁質、やや黄味 帯透明釉	13C中～14C初頭？(口禿白磁、 南宋後半竜泉窯青磁など)	博多Ⅲ (118)
15 (995201106)	博多120次	SK94 (溝状土坑)	浦口窯・碗(外 面蓮弁文)	灰色磁質、ややオリーブ 色帯透明釉	14C前半	博多 80(706)

※番号は図1に対応

※報告書は福岡市埋蔵文化財調査報告書(福岡市教委)

表2 博多遺跡群出土のビロースタタイプ一覧

番号 (登録番号)	調査地点	遺構	種類	胎土・釉調	遺構の年代	報告書名 (集)
16 (884305417)	博多42次	SK735	Ⅱ類碗	淡黄白色磁化していない、淡黄白色半透明釉	16C代? (出土輸入陶磁器は15C前半～中頃が主体)	博多 17(245)
17 (047500243)	博多149次	SK5201	Ⅱ類碗	灰白色磁質、乳白色半透明釉	14C前半代	博多 110(940)
18 (840405645)	築港線3次	包含層Ⅲ面	Ⅱ類碗	灰白色磁質、灰青色透明釉	不明(14C中～15C前半頃主体か? 元青花、ベトナム白磁、元代竜泉窯青磁端反碗など)	築港線V (221)
19 (884305419)	博多42次	SK735	Ⅱ類碗	白色磁質、やや青味帯淡灰白色半透明釉	16C代? (出土輸入陶磁器は概ね15C前半～中頃が主体)	博多 17(245)
20 (024400200)	博多141次	1面包含層	Ⅱ類碗	淡灰白色磁質、青味帯透明釉	不明	博多 100(809)
21 (840405588)	築港線3次	包含層Ⅱ面	Ⅱ類碗	淡灰白色磁質、乳白色不透明釉	不明(15C代が主体か? 15C前半明青花、明代邵武窯白磁・白磁腰折れ皿、竜泉窯青磁雷文帯碗など)	築港線V (221)
22 (840405648)	築港線3次	包含層Ⅲ面	Ⅲ類碗	淡灰白色磁質、灰色透明釉	不明(14C中～15C前半頃主体か? 元青花、ベトナム白磁、元代竜泉窯青磁端反碗など)	築港線V (221)
23 (840405649)	築港線3次	包含層Ⅲ面	Ⅲ類碗	淡灰白色磁質、やや黄味帯透明釉	不明(14C中～15C前半頃主体か? 元青花、ベトナム白磁、元代竜泉窯青磁端反碗など)	築港線V (221)
24 (840405584)	築港線3次	包含層Ⅱ面	Ⅲ類碗	淡灰白色磁質、やや青味帯淡灰白色半透明釉	不明(15C代が主体か? 15C前半明青花、明代邵武窯白磁・白磁腰折れ皿、竜泉窯青磁雷文帯碗など)	築港線V (221)
25 (864800710)	博多35次	包含層2層	Ⅲ類碗	淡黄白色磁化していない、やや青味帯透明釉	不明確(輸入陶磁器から14C前半～15C前半?)	博多 47(396)
26 (850900315)	博多29次	包含層3層	Ⅲ類碗	淡灰色磁質、淡灰色透明釉	不明(14C～16C代)	博多Ⅷ (148)
27 (840405585)	築港線3次	包含層Ⅱ面	Ⅲ類碗	白色磁質、やや青味帯淡灰白色不透明釉	不明(15C代が主体か? 15C前半明青花、明代邵武窯白磁・白磁腰折れ皿、竜泉窯青磁雷文帯碗など)	築港線V (221)
28 (000600069)	博多124次	SK189 (方形木室)	Ⅲ類碗	淡黄白色磁化していない、淡黄白色透明釉	16C代後半	博多 87(758)
29 (000600771)	博多124次	SK119 (方形木室)	Ⅲ類碗	淡黄白色磁質、淡黄白色半透明釉	16C後半	博多 87(758)
30 (050900066)	博多152次	SK079	Ⅲ類碗	灰白色磁質、やや黄味帯透明釉	不明	博多 111(941)
31 (840405582)	築港線3次	包含層Ⅲ面	Ⅲ類皿	淡灰白色磁質、青味帯淡灰白色不透明釉	不明(14C中～15C前半頃主体か? 元青花、ベトナム白磁、元代竜泉窯青磁端反碗など)	築港線V (221)
32 (840405593)	築港線3次	包含層Ⅱ面	Ⅲ類皿	淡灰白色磁質、灰青色半透明釉	不明(15C代が主体か? 15C前半明青花、明代邵武窯白磁・白磁腰折れ皿、竜泉窯青磁雷文帯碗など)	築港線V (221)
33 (884305579)	博多42次	SK709	ⅡorⅢ類皿	淡灰白色磁質、やや青味帯透明釉	14C前半～中頃	博多 17(245)
(840405646)	築港線3次	包含層Ⅲ面	Ⅲ類碗	灰白色磁質、やや黄味帯透明釉	不明(14C中～15C前半頃主体か? 元青花、ベトナム白磁、元代竜泉窯青磁端反碗など)	築港線V (221)
(864800153)	博多35次	SD30(1面 道路側溝)	Ⅲ類碗	淡灰白色磁質、やや黄味帯透明釉	15C前半～中頃(輸入陶磁器の年代は概ねこの時期)	博多 47(396)

※番号は図2に対応

※報告書は福岡市埋蔵文化財調査報告書(福岡市教委)



写真1 博多遺跡群出土の今帰仁タイプとその関連資料（縮尺不同）



写真2 博多遺跡群出土ピロースタイプ (縮尺不同)